

持続可能な観光地を目指す。

市では、観光交流人口や経済波及効果の拡大、さらにはそこに住む人びとがより幸福を感じることができるシビックプライドの醸成など、持続可能な観光振興を図るために、行政・観光関連団体・市民の皆さんが協働して取り組む具体的な施策と事業を定めた「矢板市観光振興アクションプラン」を策定しました。

今号では、アクションプランの概要とその実践に向けて鍵を握る人物をご紹介します。



矢板市観光振興
アクションプラン
について

観光振興の基本理念

▶来てよし！住んでよし！観光によるまちづくり

本市の観光資源を生かした、来訪者を選んでもらえる観光地づくりを通じて、観光産業にとどまらず、農林業や商工業など、地域全体の経済を活性化させます。

また、市民自らが観光振興の主体であることを認識することで、自分の地域を誇りに思い、本市に「住み続けたい」と思える活力に満ちたまちを目指します。

来てよし！

観光を通じた
地域経済の活性化

住んでよし！

矢板に「住み続けたい」
と思えるまちづくり

観光振興のコンセプト

▶豊かな地域資源を生かした観光スタイル

本市には、自然、歴史、文化のほか、基幹産業である農業や林業など、多種多様で豊かな地域資源があります。

これらの豊かな地域資源を生かした観光スタイルをコンセプトとして、観光関連団体、観光事業者、市民、行政などが互いに協働して観光振興に取り組むことで、本市が目指すまちづくりにつなげます。



観光振興の目標

▶観光による経済波及効果の拡大、シビックプライドの醸成

「豊かな地域資源を生かした観光スタイル」を確立することで、観光による経済波及効果を拡大させ、さらには、市民自らが来訪者に選ばれる観光資源があると認識することで、自分の地域を誇りに思うシビックプライドを醸成します。



「観光トレンドが変化した今。
この機をチャンスに、持続可能な観光
の実現を目指す」

コロナ禍の今、観光のトレンドも大きく変わりました。

いわゆる3密を避けることが重要になり、団体旅行から個人旅行への動きも一層強まりました。

また社会動向としては、SDGsなど「持続可能な社会」への関心が高まりつつあります。

都市圏からアクセスがよく、八方ヶ原をはじめとする豊かな自然や、そこに根付いた産業、人びとの営み、文化を備え「穴場」といえる本市にとって、このトレンドの変化はアドバンテージとも捉えることができます。

例えば、「自然や文化のストーリーで来訪者の知的好奇心を刺激する」、「地域の農産物や特産品を観光コンテンツに取り入れる」、「市民との交流の機会を設ける」など、本市の観光資源に価値を加えることで、来訪者の満足度向上とともに、地域には経済効果が創出されます。

また、来訪者と市民との関係性が生まれれば、来訪者の口コミや再訪につながり、市民のシビックプライド醸成にもつながります。

こうした市民を中心に好循環が生まれていく観光は、当プランの基本理念である「持続可能な観光」と軌を一にするものです。

この機をチャンスと捉え、当プランの着実な実践を通じ、持続可能な観光の実現を目指します。



矢板市商工観光課長 加藤 清美



観光振興の数値指標

▶数値指標について

数値指標は、「やいた創生未来プラン」の重点項目「時代に即した産業を振興するまちづくり」のうち、政策「自然、歴史、文化などの地域資源を生かした観光スタイルのまちを目指します。」の目標指標に、観光振興施策に係る市民の満足度を加えた以下の4項目とします。

	現状値 (R2)	目標値 (R7)
指標1 観光客入込数 ※1	1,742 千人	2,000 千人
指標2 観光消費額 (1人1日あたり) ※2	7,000 円	11,000 円
指標3 スポーツツーリズム 経済波及効果 ※3	14 億 168 万円	21 億 2,500 万円
指標4 観光振興施策 市民満足度 ※4	24.2%	32.0%

※1：栃木県による主要な観光地や集客施設、イベントなどの来場者の調査から算出

※2：環境省による日光国立公園の観光消費額調査から算出

※3：矢板スポーツコミッションによる経済波及効果の調査から算出

※4：矢板市による「矢板市総合計画等策定に係る市民意識調査」各施策の満足度から算出

5つの施策×鍵を握る人物

▶本市の観光振興にあたりとりまとめた「5つの施策（歯車）」と、その実践に向けて「鍵を握る人物（キーパーソン）」をご紹介します！

1. 観光基盤の整備

- ▶八方ヶ原周辺などの観光資源を、観光関連団体、市民が活用できるようにするための利用条件整備や支援、民間力も活用した観光基盤の整備
- ▶市民ボランティアとの連携による観光資源の景観保全
- ▶文化スポーツ複合施設などを活用した市内観光の拠点化

2. 観光推進体制の強化

- ▶観光関連団体・観光事業者・行政のビジョン共有による官民一体での取り組み
- ▶観光振興を推進する組織として（一社）矢板市観光協会の機能強化
- ▶矢板スポーツコミッション・泉交流協議会の機能強化、今後のあり方検討

3. 観光商材の開発、磨き上げ

- ▶地域資源を生かしたツアー、土産物などの観光商材の開発、磨き上げ
- ▶農業・林業と連携した体験交流型観光の推進、after コロナ・インバウンドを見据えた観光商材の開発
- ▶観光商材のストーリー化による回遊性向上、滞在時間延長、再訪促進

4. 観光情報の発信強化

- ▶観光案内所、観光施設との連携による積極的なPR活動
- ▶マーケティングに基く各種メディア、SNSを活用した周知
- ▶「いちご一会とちぎ国体」開催を契機とした誘客

5. 観光を通じたシビックプライド醸成機会の創出

- ▶マイクロツーリズム推進による市民の矢板観光への関心向上
- ▶市民の観光ボランティアやイベントへの参加による「シビックプライド」の醸成



たかはらの森管理グループ
運営理事 白石 盛人

「八方ヶ原」を起点に矢板を盛り上げる。
たかはらの森管理グループの一員である私は、指定管理者として「山の駅たかはら」と「県民の森」の運営に携わっています。今後、八方ヶ原周辺を散策・キャンプ・アクティビティの3本柱で、有効活用を図っていきます。年内に、山の駅たかはら周辺でキャンプ場の開設を予定しており、八方ヶ原周辺を起点に、観光を通じて矢板のまち全体を盛り上げられるよう、全力で取り組んでいきます。



（一社）矢板市観光協会
会長 高柳 真知子/事務局長 神崎 裕樹

ストーリーがある観光ツアーの開発へ。
私たち観光協会は、令和3年4月に一般社団法人化しました。今後は、さまざまな業種同士が情報交換できる場をつくり、コラボレーションすることで、食・自然・伝統文化などの魅力がストーリーでつながる観光ツアーの開発を目指します。また、スポーツも新たな観光資源として、合宿誘致やイベント開催により、矢板の観光振興につなげていきます。そして矢板が、近隣市町への通過点ではなく目的地になる観光地づくりを実践していきます。



やいた未来産業会議
座長 横田 文哉（矢板市商工会）

矢板のNEWお土産づくりに挑戦中！
私は、農商工が連携して新たな6次産業化の実現のために今年度創設された「やいた産業未来会議」の座長として、メンバーの皆さんと矢板の新しいお土産開発を進めています。現在、矢板で生産されたヨーロッパ野菜（ヤイタリア）を活用したチップスを候補として企画検討中です。矢板の魅力を広く発信できるアイテムとして商品化を実現し、交流人口や観光人口の増加、経済波及効果などにつなげていきます。



矢板市商工観光課
地域活性化企業人 萩原 正人

戦略的な情報発信。そして観光振興へ。
私は、昨年7月から地域活性化起業人として本市に着任し、観光コンテンツの企画立案などを担当しています。近い将来訪れる Society5.0 時代に向け、デジタル技術と観光資源との相乗効果を生み出す観光DXの推進や、各種メディア・SNSなどによる戦略的な情報発信を行っていきます。効果的な情報戦略を通して、より多くの人が矢板を訪れるきっかけをつくっていきます。



矢板岳友会
会長 吉野 勝男

山開き再開。高原山の魅力を伝えたい。
私は、岳友会として高原山の登山道整備を毎年行っています。令和4年は塩谷町と合同で、「高原山の山開き」を開催する予定で現在、有志の皆さんと準備を進めているところです。市民の皆さんが、高原山の魅力を再発見してもらい、シビックプライドの醸成につながるよう、18年ぶりに再開する山開きに向けて万全の準備をしています。山開きへのご参加、ぜひお待ちしております！

